

「ストリートオーケストラ」 ★★★

2016 (平成28) 年8月27日鑑賞<テアトル梅田>

監督・脚本：セルジオ・マシャード
ラエルチ（天才ヴァイオリニスト）／ラザロ・ハーモス
アジーラ（校長）／サンドラ・コルベローニ
サムエル（スラムの少年）／カイケ・ジェズース
VR（スラムの少年）／エウジオ・ヴィエイラ
ブルーナ（四重奏の友人）／フェルナンダ・フレイタス
2015年・ブラジル映画・103分
配給／ギャガ

◆ブラジルのリオデジャネイロで開催された2016年夏のオリンピックは、事前に心配されていた政治的混乱も、施設を巡るトラブルもなく無事に終えたが、もう一つの大都市サンパウロには最大のスラム街エリオボリスがあり、そこでは子供たちが悲惨な生活を送っているらしい。ところが、そんなサンパウロの街にもサンパウロ交響楽団という有名な交響楽団があるうえ、スラムで育った少年少女たちが作ったエリオボリス交響楽団もあるらしい。本作はそんな実話にもとづいた映画で、クラシック音楽の数々が演奏される「音楽モノ」だが、その出来は？

モーツァルトの『キラキラ星練習曲』は誰でも知っている初歩中の初歩の曲だが、これだって変奏曲になり、一流の演奏者が演奏すると素晴らしい曲になる。ところが、サムエル（カイケ・ジェズース）やVR（エウジオ・ヴィエイラ）たちによる、屋根もない金網で囲われただけの「教室」の中での「演奏」を聴くと、アレレ・・・。

◆ サッカーはボールが一個あり、ちょっとした空間と仲間さえあればできるから、スラム街で貧困に苦しむ子供たちでも容易にできる。したがって、サッカーでブラジルの英雄になったペレのような選手が生まれる可能性も大きい。しかし、ピアノやヴァイオリンそしてクラシック音楽になると、楽器は高い、楽譜を読む勉強が必要、教師が必要、レッスン料が高いから、スラム街の子供たちには到底ムリ。そう思うのが当然だから、演奏のひどさはさておき、そもそもアジーラ校長（サンドラ・コルベローニ）のもとに約20名の少年少女がヴァイオリンやコントラバスを持ち、「金網教室」のいすに座っていること自体が不思議だ。

他方、そんなスラム街の学校に、かつて「神童」と騒がれた男ラエルチ（ラザロ・ハーモス）が音楽教師としてやってきたのには、それなりのワケがあるのは当然だ。そのワケは、本作冒頭に登場するラエルチがサンパウロ交響楽団の演奏者のオーディションを受ける風景を見ればわかるので、そこをしっかりと。

◆演奏者として自分を高く売るためには、それなりのステップを踏む必要がある。ところが、ラエルチは友人たちとやっている弦楽四重奏でも仲間の女性ブルーナ（フェルナンダ・フレイタス）にあたりっ放しだから、チームがうまく機能しなくなってしまったのは当然。その挙げ句に、立派な腕前を持ちながらプレッシャーに負けて肝心の時に演奏そのものができなくなってしまったのだから、ヤレヤレ・・・。

したがって、ラエルチにとってスラム街の「金網教室」でのヴァイオリン教師は「でもしか先生」だったわけだが、それにしても、この生徒たちの演奏はひどすぎる。なにしろ、まともに座ることも、まともに楽器を持つこともできないうえ、楽譜を読むこともできないのだから…。

しかして、本来の夢が挫折してこんなつまらない職場にやってきているラエルチが、ここで生徒たちに教える意欲を燃やすことができたのは一体なぜ？また、こんなレベルの生徒たちがコンクールで優勝できたり、エリオボリス交響楽団まで結成することができたのは一体なぜ？本作を見れば、それがなるほど、なるほどとわかるはずだが、さて実態は・・・？

◆ごみための中にも、一人だけきらめく才能を持つ生徒がいた。それがサムエルだったが、スラム街で若者たちが生きていくためには力ネが必要。そして、そのために若者たちがさまざまな組織抗争に巻き込まれてしまうのはやむをえない。さらに、盗みや恐喝等を常習としているスラム全体の敵は警察だ。

しかしてある日、VRが乗っていたバイクが警察に追われ、同乗していたサムエルが射殺されてしまったが、それは一体なぜ？サムエルが死んでしまうと、生徒たちの演奏の要（かなめ）がなくなってしまったから大変だ。他方、ラエルチには次の交響楽団の演奏者募集のオファーがあり、ラエルチはそのオーディションに臨もうとしていたから、その練習もしなければならず大変。しかして、ラエルチはあのひどいレベルの生徒たちをどんな練習で一流の演奏ができるところまで引き上げることができるの？

◆本作のクライマックスは2つある。1つは、サムエルが抜けたもののVRを中心とした生徒たちが、コンクールで見事な演奏を見せること。もう一つは、ラストチャンスともいべきオーディションに合格したラエルチが、晴れの舞台で交響楽団の一員として立派な演奏を見せることだ。その意味では本作の結果は万々歳なのだが、その結果は一体どうやって実現できたの？

リオのオリンピックで、日本は金12個、銀8個、銅21個という最高のメダル数を獲得したが、そこに至るまでには個々の選手たちの涙ぐましい努力があったはず。監督と選手との絆という点では、女子シンクロナイズドスイミングの井村雅代監督と選手たちとの関係がその典型。選手たちが死ぬ思いで井村監督についていったことがよくわかる。

ところが、本作を観ても肝心のその部分がわからないから、私はついイライラ。一体、いつどんな練習をやったら、こんなレベルまで上達できるの？それを見せてくれないければ、全然説得力がないのでは・・・？